

令和5年度 第1回

小国町総合教育会議会議録

小国町

## 令和5年度第1回小国町総合教育会議会議録

1. 召集年月日 令和5年8月28日（月）
1. 召集の場所 小国小学校アクティブ・ラーニング・ルーム
1. 開 会 午後1時30分
1. 閉 会 午後2時45分
1. 出席構成員
- |         |          |
|---------|----------|
| 小国町長    | 渡邊 誠次 君  |
| 小国町教育委員 | 木下 勇児 君  |
| 小国町教育委員 | 時松 比佐代 君 |
| 小国町教育委員 | 高村 さつき 君 |
| 小国町教育委員 | 石松 愛子 君  |
| 小国町教育長  | 村上 悦郎 君  |
1. 欠席構成員 な し
1. 傍 聴 者 な し
1. 説明のために出席した職員の職氏名
- |             |         |
|-------------|---------|
| 小国中学校長      | 真嶋 剛 君  |
| 小国小学校長      | 堺 昭博 君  |
| 総務課長        | 佐藤 則和 君 |
| 教育委員会事務局長   | 久野 由美 君 |
| 教育委員会事務局次長  | 後藤 栄二 君 |
| 教育委員会学校教育係長 | 松本 恵 君  |
| 総務課課長補佐     | 松本 徳幸 君 |
| 総務課課総務係長    | 原山 慶士 君 |
| 教育委員会教育指導委員 | 荒木 完二 君 |
1. 会 議 内 容 別紙「令和5年度第1回小国町総合教育会議次第」のとおり

## 会議の経過及び顛末

### 1. 開 会

事務局：松本総務課課長補佐

### 2. 町長挨拶

構成員：渡邊町長より挨拶

### 3. 教育長挨拶

構成員：村上教育長より挨拶

### 4. 出席者紹介

別紙「令和5年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿」のとおり

### 5. 協議事項

構成員：渡邊町長が小国町総合教育会議設置要綱により議長となり、議事を進行する。

1) 令和5年度「小国の教育改革プラン」について

2) 令和5年度の取り組みについて

村上教育長、真嶋小国中学校長、堺小国小学校長が資料により説明

## 構成委員の意見

### ○時松教育委員

昨日、北里記念館勤務を英郎先生と一緒にしておりまして、その際お話されていたのが、今とても印象にあることは、子どもさんたちが学校に登下校するときに、横断歩道を渡って一礼を深くしてくれるのがとてもよく、社会に出たときに挨拶は基本中の基本で、人と人とのコミュニケーションのスタートはそこだから、これができるということはとても素晴らしいことであるっていうことで言われました。私も同感でうれしいことだと感じます。ずっと社会人になるまで続けてほしいし、大人もそうありたいと思いました。

それと、23日の夜にみちくさという、学校になかなか行くことが難しい子どもを持つ親の会というのを長年やってるんですが、そこに学校に行けなかった当事者、お母さんと子どもさんが来られて、この方はもう大学生なんですけど、学校でちょっと話ができる場所、学校以外でちょっと話ができる場所があったらいいという話が出ました。以前は大塚さんがしてくださってたんですが、それが今なくなってしまっています。全ての子どもたち1人も取り残さずに、何か人と人との関わりができる場所、適応教室みたいなのところがあるといいと思うんですが、こころの内をちょっと言える場所とかですね。そういうのがあったら、子どもたち救われる場所にもなるんじゃないかなと思います。

### ○久野事務局長

今のところ適応教室というのありませんが、学校の中でそういった話ができるようにそれぞれの先生方に子供たちが来やすい時間に体育館に来てもらって一緒に移動するとか、そういうことをしていただいているところです。

以前、大塚さんがして下さった「おばぴーの家」ってすごくありがたかったと思います。以前から時松委員さんからそういうお話を伺って、事務局の中でも話はしてるのですが、やはりその場にずっと人がいないといけないということで、そういう方がなかなかいないというのと、場所もいろいろ考えてみたのですが、部屋を作ってそこに来てもらうというのが、厳しい状況であります。例えば、図書室には常時人がいるのでそこに来てもらうとか、そういうことならできるかもしれません。保護者や、卒業生の話とかも受け止めて、何かいい方法はないかなと思っているところです。

### ○村上教育長

今事務局長が言ったように常時開設ということで、具体的に厳しい状況という実態があります。昨年度まではそういう理由があって具体的にはありませんでした。真嶋先生、今の不登校の状況のお話をよろしいでしょうか。

### ○真嶋校長

全体的に、多数というわけではありませんが、やはり、家庭の状況であるとか、人間関係をうまくつukれないというような中で、学校に来られないというような状況が、各学年の現状としてはあるかと思っています。今ありましたように、やはり学校に足を向かせたいけれどやっぱりその敷居が高いとか入れないっていうことで、入れる子供たちは、例えば保健室であるとか、別室であるとか、または支援学級に入って支援学

級で、少人数の中で少し慣れたりできますが、中には体育館までしか来られなくて、担任が体育館で会う機会をつくりながらというところもあります。やはり、状況としては、ワンステップですね、学校へ足が向かない状況の中で安心して子どもたちが学習や思いを話せるような場というのが、どこかにあると、そこから次に少しずつ学校に来られるというようなかたちはできるのかなと思います。今の中では連れてくるどころまでが、本人たちにとってはかなり厳しい状況がある子たちが数名いるのが現状で、その辺りの中ではやはり、校内だけではない部分で何かあればありがたいです。

#### ○渡邊町長

なかなかすぐに答えが出るようなことではないと思いますが、具体的に少しでも進むような話をしていけないといけないと思います。事務局でもある程度取りまとめて、ほかにどんな方法があるのか、人を配置するだけではなくて、最近では特にSOSを出される子どもたちも含めて、もう電話もかけられない、電話かけるぐらいだったら普通に相談できるので、その手前の部分でチャット等で対応することが非常に増えてきてると。もう一つは、昼間だけではなくて夜もというところもありますので、その部分では受け止められる体制づくりを県と協力するなり、町にするなり、私もずっと気になっておりましたので、そういったところも含めて、事務局側で少し話をしてください。大事なところだと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

#### ○時松教育委員

はい。不登校だけでなく、学校に行けていても心の悩みを持つなど、ちょうどそういう年齢でもありますので、何か人を育むというか、誰1人取り残さないというところで、将来的にそういうのをつくれるように持っていつてもらえたらと思います。ありがとうございました。

#### ○高村委員

先ほど堺校長先生から本を読むことが少なくなっているという話がありました。

やはり読書をいかにするかで問題を読み解く力とか、本を読むというのはすごく大事だと思っています。せっかくタブレットがあるので、何かタブレットでの本の貸出しとかは出来ませんか。タブレットの中に本があると、借りに行かなくてもタブレットを使って家で本が読めるというシステムはまだないですか。何か本が身近にあっていいなと思います。

#### ○堺校長

実質的には可能です。しかし、相当お金がかかります。お金かからない方法も実はないことはありません。というのは例えば、青空文庫っていうアプリケーションです。もう著作権が切れた文学書なんかをボランティアさんがテキスト化したもので、これも十分見る事が出来ます。例えばこれは中原中也の詩集ですね。こんな感じで、いかにも紙を捲るような感じで見ることも出来ますし、注文の多い料理店、宮沢賢治とかですね、この辺は中学校の図書館にもたくさんありますので、見る事が出来ます。これは、入れてしまえば著作権が切れた分は見えますが、ただ、やっぱり古いので、子どもたちが見るような絵本あたりはちょっとお金が必要かなと思います。でも、何か公立図書館と連携をして、デジタルの図書館をつくってくれているところもあり

ますけど、やっぱりこれもとてもお金がかかります。聞いてみたら、億の事業だそうです。でも、連携して公立図書を1個つくって、それと、学校のタブレットを結ぶと。月10万ぐらいで可能です。でもそういうのが、今は出始めですから高いですけど、そういうのがもう少し進んでくると、随分安くなるのかなと思います。でも、私としては紙の本に親しむってというのはとても大事なことだと思いますので、紙芝居も、アナログでこうやって紙を引き抜きながらやっていくのをとても微笑ましく見えています。そういう紙に親しんでやっていく。また調べ学習はもうインターネットでさせたがるんです教員も。楽だからですね。でも、もう調べ学習はインターネットでするなっていうふうに僕は言ってます。出典が分からんでしょと話をするんですね、どこから来たか分からんような言葉を子どもに教えるなというふうに言って、もう図書館にある本を見ましょう。それか、ちゃんと出典が分かる資料を、先生が準備して、それから読み取りにしましょうっていうふうにしてます。やっぱり紙の、本の大事さっていうのを、大事にしたいなと思っています。

#### ○渡邊町長

以前町のほうでも、熊本日日新聞さんとデジタル図書館の話はあったのですが、やはり始めたらずっとやらなければいけないというのもありますし、先ほど校長先生が言われたように、出始めてもう10年ぐらいになりますので、アナログで本を触るということを優先するのか、デジタルのほうに落とし込んで読んでもらうのかは選択肢になってくると思いますので、また、検討材料としてずっと考えながらいかなければいけないと私も思ってるところです。

#### ○木下委員

一つは、先ほど町長は冒頭の挨拶の中で台湾の士林区と今後友好締結され、今後これからどういう形でどんな交流をするかという具体的な話はこれからだったと思います。特に小・中学生に対してや文化的な交流。飛躍すれば修学旅行も含めて、町の教育目標にも国際化に対応できる能力を育むといった柱があるので、ぜひ小中学生も含めて交流等が進められたらというふうに感じてますがいかがでしょうか。

あと二つ、先ほど中学校の校長先生から報告があり、先日教育委員会でも報告が教育長からありましたけども、学力について非常に小国だけではない、阿蘇郡内が全体的に厳しかったという状況は今回あったということでした。その学力向上についてもいろんな取組をされている発表もあったんですが、私の見解が間違ってるかもしれませんが、やっぱり先生たちのスキルアップが非常に大切なんじゃないかなと感じてる所があります。これはもう一朝一夕ではちょっと出来ない話なので、ぜひそこもしっかり、教育委員会、学校で取組をお願い出来たらというふうに思ってます。最後に、子どもの登下校の安全、ちょっと今日の話題と少し違うかもしれませんが、倉原の交差点の近くの空き家の外壁が剥がれたとか、昔、丸菱と言ってたところの天井も落ちてるということで、子どもたちが多く歩く場所で、そういったものがあるということで、やはり通学路の安全についてです。特に道路の外側線ですね、車、歩道、歩道と言える部分じゃないですけども、今すぐに歩道をつくれと言ってもこれも難しい話なので、できるだけ外側線横断歩道、手前のダイヤモンドあたりの白線を計画的に

全体的に対応していただけたらなというふうに感じてます。

#### ○渡邊町長

私のほうから2点をお答えさせていただきたいと思います。まず、グローバルの部分ですけども、この部分に関しては、もう台湾との交流は実はもう避けて通れないと考えます。TSMCの時点でいろいろな話があって、それ以上にいろんなかたちで繋がっていく世の中になってきています。たまたま小国町は35年間ずっと中国文化大学との交流が続いてきていました。続いてきたのは間違いないのですが、だから友好の交流を結びましょうという話は35年間なかったわけで、たまたまこのタイミングで今回友好締結のお話があったので、そこに小国町としてはいいお話なので乗っかきたいというところなんです。それにも増して、大学関係、学校関係と繋がっていくというところでいくと、単に観光や人事交流だけではなく、いろんな意味で今後のつながりも含め広がっていくと思いますので、町といたしましても、士林区の区長さんや区の方にお伝えしたのは、子どもたちから繋がって、大学が中継点じゃないですけども、大学の交流がずっと続いていきますので、学習の部分、教育の部分で繋がって友好の交流を中心にしていきたいという意思表示ということをお伝えしております。その部分で、語学力も英語なのか、台湾の言葉なのかは抜きにしても、やはり、今回、熊本県でも人口的に台湾の方たちが増えてきておりますので、国際学校的な英語を使う学校も含めてもうつくられておりますので、できるだけ小国町の中でも、小学校、中学校、高校とそれぞれで段階はあるかもしれませんが、グローバル化につながるような形で、町としては1番最初のスタート地点のお膳立てをしたいと思います。あとの部分の方法は、やはり学校関係者、教育委員会を含めて、皆さん方と話していきながら、どの方法がいいのかというのは、これから煮詰め作業をしていただきたいと思いますので、まずは今の現時点では、行政同士のつながり、これをしっかりと定着させて、子どもたち、それから大人も含めてつながっていけるようなかたちを今後つくっていききたいというふうに思っているのが1点です。

それから、道路の外側線は今年度の事業でやります。やはり歩道はなかなか難しいです。道路幅が決まっているので、あとは色を入れたカラー舗装を関田の交差点から、小国高校の前を通り、倉原の交差点を通り、甲斐田歯科医院まであたりを、社交金で予算措置されておりますので、できるだけ早めにできればと思います。今年度の梅雨で被災もしましたので、建設課のほうがどれだけ事業を進めることができるか分かりませんが、できるだけ早めに実施したいと思っております。また、先ほど言われた壁の落下については、調査が出来次第対応していきたいと思ってます。できるだけ子どもたちの通学の安全をしっかりと考えていきたいと思ひますし、また、情報を含めてですね、教育委員会とも話をしていきたいと思ひます。

#### ○村上教育長

台湾との交流ということで、私も出張させていただいたのですが、士林小学校というのが富山県の射水市と山口県との交流を始められています。9月から新しい学期が始まるということでしたが、交流はいつから初めてもいいですよということで、母国語の台湾語、英語、日本語などでの交流。何で英語というところで、英語の交流は町が

先ほど言いましたように英語特区で英会話科においてめばしい特徴がなかったのですが、今度の台湾との交流で実際に子どもたち同士との英語での会話というのを一つの目標にして、その中で異文化交流でもいいし町の紹介でも、そういったことから始めていくとより深い英会話につながっていくんじゃないかなと思います。また、オンラインではいつでもいいですよということでした。先ほど出ました子どもの行き来する交流ですかとか、修学旅行であればちょっと待ってくださいということでしたが、そういったところも実際、骨子案に入れてということで、一步一步進めて、町が目玉というか、英会話科の学びの意欲を高める目標に非常に今回はよかったのかなというふうに思っております。また、いろいろ発想が出てくると思います。それと、学力向上のところ、先ほど言われたように教師の指導力というのが1番そして、前も言ったことなんですけど、子どもたちの学ぶ意欲ですね。それを含め私たち教育委員会と家庭この三つが重なって学力は向上していくのかなと思うんですが、先生方も非常に、今いい雰囲気小学校も中学校も職員数も少なく忙しいそうなんですけど、私が大きく感じてるのは、中学校の職員室も小学校の職員室も言葉が優しくなったということですね。何かこう、昔はガツガツとした言い方だったんですけど、まろやかな会話になったというのは、子どもたちも絶対感じるだろうし、そこはいいところです。そうすると、教育事務所に学級経営サポートで、派遣をしていただくとか、若い先生方の研修を進んでやってくれていますので、必ずステップアップしていくんじゃないかと思っています。

## ○堺校長

はい、学力向上、授業改善ですね。やっぱり授業をどう変えていくかということろだと思います。これは、この教室（アクティブラーニング室）を使ってる時の様子です。昨年度の研究発表会の時の様子です。これは今の5年生です。後ろにたくさん人がいます。この線に沿って、机を並べて授業を受けています。前にいるのは先生です。黒板がなくて、電子黒板が黒板代わりなんですね。これまでの授業はどうしても、先生が一方的に話をして、子どもたちは必死にノートをとってというイメージだったと思うんですが、今は自由に子どもたちが班をつくってもらって話し合うようなスタイルが中心になってきています。このスタイル実は非常に難しいです。子どもたちにしっかりした学びの場を与えて、テーマから外れないように持っていく必要があるんですね。そして、こうやって子どもたちは話し合いをして、最終的には壁全面のホワイトボードにまとめるようになってきました。このことが、間違いなく、学力向上にはつながっていくというふうに思います。ただ、先ほど高村委員さんがおっしゃったように、文章が読めないとどんなにこの場で頑張ったとしても、本当の学力にならないんですよ。ですから、文書・テキスト、例えば図表を読み取るとか、文章を読み取るとか、そういう経験をたくさんさせる必要があるのでやっぱり読書は大切ですし、それから家庭でのメディアとの付き合い方ですね。保護者からは、もうずーっと動画見てますというようなことも聞きます。ゲームばかりしてますという話も聞きます。するなとは言わないんですけどもやっぱ時間を区切って、うまい具合に子どもたちに紙の本に触れさす機会というのを作れないかと。PTAとそこは話をしなが



ら、家庭を巻き込んで進めていきたいなというふうに思っているところです。小学校からは以上です。

#### ○真嶋校長

中学校ですけれども、先ほどあったように、やはりかなり厳しい状況はあるのかなと思います。夏休み中に、学習会等がありましたので、回りながら様子を見たんですが、やはり基本的なところの定着が出来てない子どもたちも何名かいましたので、そういう意味では、先ほど言われるように一人一人の授業力の向上ということが1番大きいのかなと思います。実際、本校では理科が8年生9年生は超えているのですが、授業の様子を見ている中で、やはり子どもたちがくいつくような発問や、工夫、また、今「熊本の学び」ということで新しい学習を県のほうで進めていますが、子どもたちが分かったとか、出来たとか、とてもこの授業はためになった、そういう感想を感じられるような授業づくりというのが1番重要になってくるのかなと思います。だから先ほど、ICT関係もありましたけれども、まずは子どもたち一人一人が主体的に本当にやる気を持って学習の楽しさを感じさせるような、授業づくりというのを先生方と進めていく必要があるのかなと思います。若い先生方が非常に多いので、そういう意味では相互の交流であるとか他校にスーパーティーチャーとかいらっしゃるので、そういう授業を見に行く機会であるとか、やはりお互いに学ぶということ、互いに刺激をとということが非常に大切になるのかなと思います。それが1点と、もう一つは、中学校の場合はどうしても9年生は進路という流れがありますので、キャリア教育の視点というのも非常に大事な部分にはなるのかなと思っています。何のために勉強するのかってなったときに、子どもたちの将来的なビジョンを見た上で、自分はこういう人になりたいとか、こういう仕事につきたい、そういう目標がしっかりとあり、目標になるような人たちの生き方とかを見ていく中で、先ほど英語の必然性の話もありましたが、子どもたちが勉強をしていく必然性、学習の必然性を感じていくということも並行しながら進めていければと思っていますところです。

#### ○石松委員

先生が先ほど言われた理科が、8年生と9年生が県よりちょっと上回っていた件についてです。理科の先生と国語の先生が確か欠員が出てと思うんですけど、理科の先生お1人で全学年の今授業をされているのですか。7年生はまだ入学したばかりなので、結果が出てくるのはこれからかなと思うのですが、8年生と9年生の授業が気になるぐらいすごくいい指導されてるのかなあと思いました。もう一つ、今年度4月からフォーサイト手帳を中学校は、小国っ子ノートじゃなく導入されていて、これについて、子どもさんたちの反応と先生たちが、どういうふうに言われてるのかなというのがちょっと気になりました。

#### ○真嶋校長

F o r e s i g h t 手帳に関しては昨年からです、家庭学習の定着の論議があったということで、今年度最初に、思い切って変えていこうかという話で導入したというのが経緯としてあります。やはり今の段階では個人差があります。本当に丁寧にできる子もいれば、ただ何となく書いている子どももいて、基本的に担任が集めて、コ

メントをきちんと書きながら指導していくということで、少し手間はかかるのですが、とにかく継続的に改善していこうと現状としては取り組んでいるところです。個人差が大きいのは確かにありますが、マネジメントしていくことは非常に重要な力なので、来週テストがありますけども、テストに向けて、継続的に学習の計画をどうするのか見通しを持たせるために担任を中心に学年で助言を進めながら、声をかけて改善を促しているという状況です。

#### ○時松委員

年々災害とかが増えて学校が休校になったり、早くお迎えをっていうことが出てきてるんですが、その訓練でお迎えの訓練が確かあったと思います。それはスムーズにいったでしょうか。

#### ○堺校長

ありました。小学校の運動場に入ってもらったんですけど、車が運動場に入って当日またま雨が降っておりました。これまで訓練の時には降っていなかったんです。ですが、前は雨が降っておりまして、どんどん泥濘んで、最後は車がスリップして、蛇行するような事態になりました。雨が降らないときのお迎えは基本的にないですから、運動場に入って車を回すのはできないという話になって、結局、小国ドームに回ってもらうようなかたちに変えていかなければいけないという話になりました。現在は災害も厳しくなってきていますので、できるだけ早く策定をして保護者には伝えていきたいと思います。

#### ○真嶋校長

中学校は、小中学校の間の道路での乗り降りというようなかたちで対応したので、大きな混乱等はないという状況でした。しかし、小学校と、重複している子どもたちもいるので、その辺りをいかに小学校と連携を取りながら、保護者の方もできるだけスムーズにお迎えができるようなかたちを進めていくというのは、必要になるのかなと思います。実際、訓練じゃなくて1回下校させたことがあったのですが、そのときも、1番遅いところが1件、2時間ぐらい後に来られたんですが、大体30分ぐらいでほぼ迎えに来ていただいて、基本的には比較的地域、御家庭で協力していただいて引渡しはスムーズに出来たのかなとは思っています。今後も、小学校と連携しながらよりよいかたちを進めていければと思います。

#### ○村上教育長

先ほど学力のことがでました。何かよくないイメージだったような気がしています。今テストに関しては、教育委員会の荒木先生に、いろいろ数字的なものや感想とか、全てを分析してもらって、教育委員会としてどんなことができるのかというところを考えています。また学校では、授業の改善の視点で検討していると思いますが、皆さんも運動会とか、体育祭を見に行った時、その際、部活動とか、運動会の時の子どもたちの協力とか、そんな能力、非認知能力の部分で、話し合っただけの折り合いをつけるとか、合意形成していくとかその辺りのところはしっかり力をつけていると感じたのではないのでしょうか。テストでは現れないんですけど、高まっているなというところは非常に感じています。それも先生方の指導であり、やはり学校の雰囲気というのがよ

く、その部分は皆さんが認めていただけるように、子どもたちの笑顔、保護者さんの笑顔ですね。学力で人間は決まりませんし、ただ、一生懸命どれだけ頑張るかが勝負だと思います。そういった部分も、私は感じています。以上です。

閉 会

事務局：松本総務課課長補佐

会議に使用した資料一覧

1. 令和5年度年度第1回小国町総合教育会議次第
1. 令和5年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿
1. 第2次小国町教育大綱
1. 小国町総合教育会議設置要綱
1. 説明資料（小国町教育長・小国中学校長・小国小学校長）